



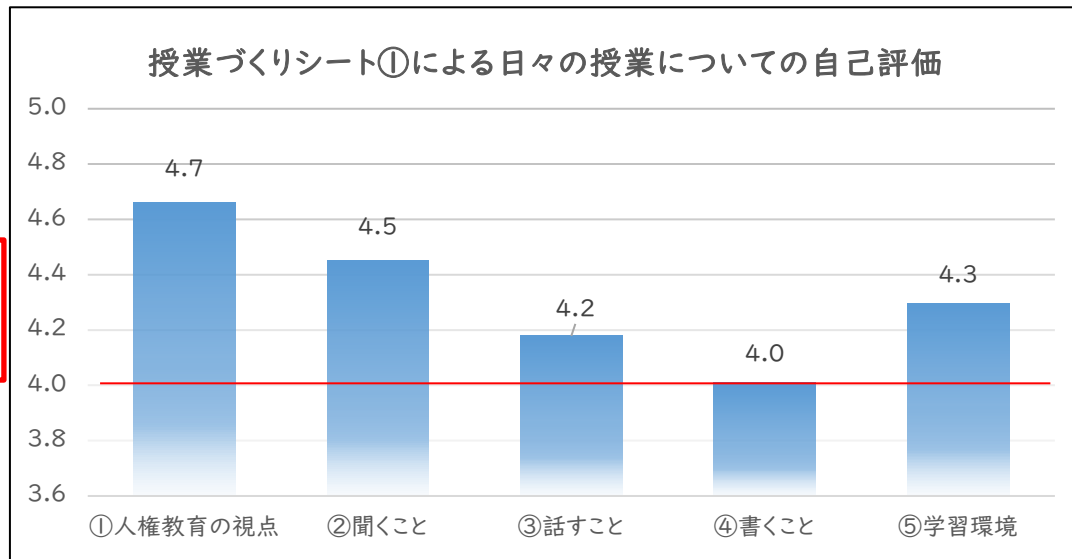
「全職員による人権教育の日常化」

令和3年度 授業づくりシート①の結果分析について



本年度から年間を通して人権教育の意識を持っていただけるよう、人権・同和教育学校訪問を廃止し、その代わりに日常的に人権教育の視点を意識した授業実践をお願いしました。そして、先生方の授業における人権意識を自己評価して、指示等に生かしていただくために「授業づくりシート①」(資料1)を作成し、嶺南4町すべての小中学校で取り組んでいただきました。その結果及び分析をお伝えします。

以下のグラフが、嶺南4町の先生方の自己評価の平均です。



Jin先生

シート①は子どもが意欲的・主体的に活動するために教師がどのくらい意識できたかを評価します。

また、1～6で評価しているので、4以上を良好と考えます。

6
1

嶺南4町の先生方の平均値がすべての項目で4以上だったという結果から、日頃の授業において人権教育への意識を持っている方が多いことがわかります。



すべての項目で良好と考える4以上ということは、先生方の人権教育への意識が高く、授業における日常的な取組は十分だということですか？

学校訪問等で先生方の授業を拝見し、多くの先生が人権教育の視点を持って授業をされていると感じました。

ただ、今回の自己評価は、後期学校訪問時に回答いただいたもののみですので、今後も定期的に継続して振り返る必要があると考えます。

また、各項目の()の自由記述の部分を学校全体で共有し、様々な角度からの視点を持ち、子どもたちの状態や変容に気づく力を高めていってほしいと思います。



Jin先生

以下に「各項目の()の自由記述」で多かった内容や大切だと感じた内容を掲載します。

<①人権教育の視点>

- (1) 「分からない」を言える雰囲気をつくる。
- (2) まちがい(誤答)を大切にす。
- (3) スモールステップ、ヒントなどを準備する。
- (4) 笑顔でいることが多いか意識する。
 - 自然と助け合える雰囲気づくりをする。
 - 支援員と連携して声かけをする。
 - リスタートするタイミングがあるか意識する。

<②聞くこと>

- (1) 声の大きさ、話すスピード、抑揚などに気をつける。
- (2) 視覚支援を行いながら話す。
- (3) 教師の発言の量に気をつける。
- (4) アイコンタクトをする。
- (5) 理解できているか確認しながら話す。

<③話すこと>

- (1) 話す場(ペア・グループ活動)を設定する。
 - (2) 話し方の見本を示す。
 - (3) 認める声かけ、価値づけをする。
 - (4) つぶやきを大切にす。
- 体験させることに努める。
 - 教師自身が自己開示をして話をする。
 - 先回りせず、待つ。

<④書くこと>

- (1) キーワード、書き出し、ヒントを与える。
 - (2) モデル文(例文)を提示する。
 - (3) 価値づけ、評価、コメントをする。
 - (4) 書いたものを共有する。
- 書くことが苦手な子への手立てを行う。

<⑤学習環境>

- (1) 掲示物の精選、情報過多にならないようにする。
 - (2) 振り返り、学習の流れ、学びの足あとが確認できる掲示物を掲示する。
 - (3) タブレットやノートの使用、具体物など選択の機会を準備する。
- 授業内容にメリハリをつける、1つの授業にいろいろな活動を含める。
 - 間接指導時に児童だけで学習が進められるような課題を提示する。

<授業づくりシート①の取組例>

- 学校で共通の項目を決め、全職員が方向性を揃えて取り組む。
- 1~2か月に1回など、定期的に取り組む。
- Formsを活用して、集計している。

自由記述の内容から、子どもたちが自己存在感を持ち、意欲的・主体的に活動できるよう、先生方が様々な取組をされていることがよくわかりました。これらの視点を全体共有し、学校における人権文化として根付かせていきましょう。



今回の結果から見えてきた課題はありますか？

分析の結果では、考えていくべき点が2つあります。

(1) 「①人権教育の視点・②聞くこと」と「③話すこと・④書くこと」との自己評価の差の開きが大きいこと。

➡子どもがバランスよく「聞く・話す・書く」ことができるように教師が話し過ぎず、子どもに活動の主導権を委ねるなど授業をコーディネートする必要があります。

(2) 人権・同和教育の視点について再確認すること。

➡人権・同和教育の視点は、子どもたちが意欲的・主体的に活動できることを目的に、どのようにして自己存在感を持たせたり、共感的人間関係を実感させたりするかを考える視点です。聞く・話す・書くのルール徹底等の指導の観点(例: えんぴつを正しく持つ等)と人権・同和教育の視点とは異なることをご確認ください。



Jin先生

これら授業づくりシート①から見えてきたことを踏まえ、来年度の方向性についてお伝えします。

(1) 人権・同和教育の重点事項の変更(R4「学校訪問実施要項」より)

【人権・同和教育に関して】

<全職員による人権教育の日常化と指導法の改善>

①児童生徒の自己選択・自己決定の場を設定し、子ども主体の授業及び諸活動を行うこと。

・当事者主権尊重の視点(自己選択・決定の場の設定の工夫)

②人権・同和教育の視点を明確にし、確実な実践を行うこと【学習活動(授業)づくり、人間関係(集団)づくり、環境づくり】

【視点1】一人一人の生活背景や諸事情を尊重した生徒指導及び学習指導

【視点2】集団の形成者としての在り方を考えさせる仲間づくり

※「自己選択・自己決定の場」の設定が形式的になることなく、子どもたちの非認知(やる気、根気等)の部分を引き出すための視点となるように意識して取り組んでください。

(2) 前期学校訪問、後期学校訪問時での「授業づくりシート①②」への記入(年2回実施)

・R3年度は後期学校訪問時の1回だけでしたが、R4年度は前期・後期の2回とし、継続して人権教育の視点を意識していただきたいと思います。

授業づくりシート①（人権教育の日常化に向けて）

☆ ふだんの授業を振り返りながらお答えください。

〈記入について〉
 ○前期学校訪問の後から回答までの自身のふだんの授業について6段階で記入してください。
 ○後期学校訪問が終わってからおよそ2週間以内に人権教育担当者を通して、嶺南教育事務所まで提出してください。

低1,2,3,4,5,6高

		授業の見取りの観点例	意識の度合い
①	人権・同和教育、ユニバーサルデザインの視点	すべての児童生徒が、安心して学習に取り組むことができる配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の学習意欲や特性等を捉えているか。 個の意見を大切にす等、一人一人が安心して授業参加できる雰囲気を作っているか。 個の言動を大切にし、認める声かけをしているか。 見通しのもてる学習活動であるか。 自己決定・自己選択の機会を設定するなど、主体的な活動に結びつけているか。 ()
②	聞くこと	児童生徒が意欲的に聞くことができる指示や提示をしている	<ul style="list-style-type: none"> すべての児童生徒が意識して聞ける環境を整えてから、指示をするようにしているか。 的確で分かりやすい指示や説明となっているか。 興味関心が高まる課題の提示とともに、話をしているか。 ()
③	話すこと	児童生徒が意欲的に話すことができる指示や提示をしている	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手のことを考えて話す意識づけをしているか。 自分の考え等を伝えたい課題の提示をしているか。 個の発言を全体につなげる声かけをしているか。 ()
④	書くこと	児童生徒が意欲的に書くことができる指示や提示をしている	<ul style="list-style-type: none"> 筆記具を正しく持ち、正しい姿勢で書く意識づけをしているか。 まとめやふりかえりの文章を書く際の、観点を明示しているか。 自分の考えや、ふりかえりを書かせる時間を確保しているか。 ()
⑤	学習環境	児童生徒が学習に集中し、学習効果があがる配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習につながるような掲示物を工夫しているか。 板書は、文字の大きさや色分けに配慮し、1時間の学びを分かりやすく書いているか。 正しい言葉遣いや話型のモデルを示す等、教室内の言語環境を整えているか。 一人一人の特性や、学習内容に応じた、座席や班編成等の工夫を行っているか。 視聴覚・ICT機器等の使用を効果的にしているか。 ()